

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成30年度)

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	齋藤 貴明	福祉	H1102028
	②	西村 豊	経営	H1601008
	③	野田 友子	福祉	H0202088
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	桂坂保育室			
事業所連絡先	〒	180-0074		
	所在地	東京都港区高輪3-19-36		
	TEL	03-5475-6646		
事業所代表者氏名	園長 坂本 恵美子			
契約日	2018年 10月 26日			
利用者調査票配付日(実施日)	2018年 11月 5日			
利用者調査結果報告日	2018年 12月 27日			
自己評価の調査票配付日	2018年 11月 15日			
自己評価結果報告日	2018年 12月 27日			
訪問調査日	2019年 1月 21日			
評価合議日	2019年 1月 21日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者(保護者対象)調査は、アンケート用紙と第三者評価の目的や趣旨、問い合わせ先等を説明した文書を付けて事業所から手渡しで配付をした。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)子どもの「自ら伸びようとする力」「後のびする力」を信じ、大切にしていきます。 2)子どもの感受性や好奇心を自然な形で伸ばし「五感で感じる力」を育みます。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>「安全」「保育力」「保護者対応」「社会性・協調性」の4つのジャンルから、さらに「子どもの安全」「発達支援」「地域との連携」など、それぞれの役割における目標を示し求める。</p> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭より大事な子どもをお預かりしている事を最優先に考え、人権に配慮した保育をしてほしい。 ・児童が心身ともに育成されるように、職員一人一人が倫理観や人間性を確実にし、保育園職員として職務内容に応じた専門性を高め、必要な知識や技術を習得してほしい。 ・職務に対しての責任の理解と自覚を常に意識してほしい。

調査対象

全園児世帯の保護者を対象とした。複数の在園児がいる場合は、最年少の子どもに対する回答をお願いした。

調査方法

郵送によるアンケート調査を実施した。園から調査票を配付して頂き、回収は評価機関へ直接郵送とした。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

利用者総数	266
利用者家族総数(世帯)	226
共通評価項目による調査対象者数	226
共通評価項目による調査の有効回答者数	138
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	61.1

利用者調査全体のコメント

調査対象世帯226世帯中、138世帯から回答を得ることができた。満足度が高かった項目としては、「保育所での活動は子どもの心身の発達に役立っていますか」「提供される食事は子どもの状況に配慮されていますか」「行事日程の設定は保護者の状況に対する配慮は十分ですか」「保育所での活動は子どもが興味や関心を持って行えるようになっていますか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できますか」などがあげられる。総合的な満足度では、「大変満足」が65名、「満足」が60名であった。「英語やリズムなど取り入れていたり、給食も季節のものを積極的に使っています」「職員同士の連携もよくとれていて、一人に伝えたことは職員間で共有して下さいます」「先生も皆明るく挨拶してくれるし、相談等も親身になってくれます」などのコメントがあがっている。意見や要望として、「夜寝るのが遅くなるので、昼寝時間を少なくしてほしいです」「人数が多いため、目が届いていないと感じることがあります」「地域の施設の見学や交流などがあると嬉しいです」などがあがった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	130	8	0	0
130名が「はい」と回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。「1歳クラスでも週に体操・リズム・英語の3つのプログラムを提供して頂き感謝している」「集団生活の中で待つことや順番など、マナーを身に付けられていると思います」「異年齢活動の時間も意識してとっていただいている良い刺激になっています」「先生方の入れ替わりが激しく、子どもの成長を継続的に見てもらえない」などのコメントがあがっている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	127	10	1	0
127名が「はい」と回答している。「自宅ではできない創作やリズム、体操教室や英語など全て大好きな様子です」「田植えや野菜を育てる等いろいろ工夫されていて良い」「季節や発達に合わせて教材を工夫したり、職員の方が指導していて素晴らしいと思う」「園が狭く人数が多いので園内では体を十分に動かせず窮屈そうに感じる」「活動の幅が狭い」などのコメントがあがっている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	130	7	1	0
130名が「はい」と回答している。「家ではほとんど食べない野菜も園では食べているようでとても安心しています」「全て手作りで栄養バランスも良くおいしくいただいています」「アレルギーにも厳格に対処していただいています」「調理の手伝いやクッキングも良い食育につながっています」「量が足りていない様である」などのコメントがあがっている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	113	19	5	1
113名が「はい」と回答している。「園庭も多く子どもの足では遠い公園までお散歩しているようです」「移動動物園はとても良い」「地域の公園や花壇への水やり、苗植えをしていたりと好感がもてる」「近くに公園がたくさんあるのでありがたいです」「戸外遊びや行事は多いですが、地域との交流がないです」「3歳児以上になる園庭中心の活動になるので外の公園に行くことも検討してほしいです」などのコメントがあがっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	122	3	1	12
122名が「はい」と回答している。「柔軟に快く対応してくれます」との回答が複数あがっている。「急な延長でも嫌な対応など一切なく受け入れていただいています」「当日の早送り、夕食対応等本当にありがたいです」「1分でも締切を過ぎると受け付けてもらえない。会社勤めで電話は自由にできないので困る」などのコメントがあがっている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	97	29	9	3
97名が「はい」と回答している。「十分取られていると思います。定期的に避難訓練も行われており有事の際には安心です」「お迎えの時に震度2の地震が起こったことがありますが、職員の方々の対応が早く驚きました」「子どもの人数が多いせいか、危ない事をしている子がいても気づかず注意してくれない」「比較的誰でも出入りしやすい環境ではあると思う」などのコメントがあがっている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	128	7	2	1
128名が「はい」と回答している。「土日に設定していただいているので参加できています」との回答が複数あがっている。「親が参加できる行事はほとんどが土日で、平日の個人面談も日時の幅が広く助かっています」「事前に希望日程をアンケートするなど、配慮があれば納得できるが一方的である」などのコメントがあがっている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	113	19	6	0
113名が「はい」と回答している。「園児の人数も多い中、職員が子ども一人ひとりのことをよく見てくれてとても信頼できる」「担任のみならず以前の担任や補助の先生も声をかけてくれる」「お迎え時に当日の様子をお話いただけたり連絡帳に細かく記入いただいているので、気軽に相談できています」「信頼できる職員もいるが関係を作ることが難しい職員もいる」などのコメントがあがっている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	116	15	6	1
116名が「はい」と回答している。「毎朝きれいに掃除されています」との回答が複数あがっている。「常にお掃除の方が園を磨き、先生も片づけやお掃除を下さっています」「園内とても清潔です。また、あらゆる場所がいつも整頓されています」「トイレが臭う。トイレを新しくしてもらいたい」などのコメントがあがっている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	110	21	6	1
110名が「はい」と回答している。「言葉遣い、態度共にやさしく丁寧です」「ほとんどの職員の方が挨拶をしてくださいます」「担任以外の先生もよく声をかけてくれて良いと思う」「皆さんいつも笑顔で挨拶して下さい、とても感じが良いです」「子どもへの注意の仕方が乱暴に感じるがあった」などのコメントがあがっている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	124	10	2	2
124名が「はい」と回答している。「ケガをした時も適切に処置していただき、状況の説明も詳しくしていただきました」「看護師さんもいらして丁寧に対応していただきました」「すぐに電話いただき到着まで親身に対応いただきました」「迎えに行った際に発熱があったが職員が気づいていないことが数回あった」などのコメントがあがっている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	96	26	8	8
96名が「はい」と回答している。「いつもその場にいた職員の方が説明してくれています」「いさかい等を隠すのではなくきちんと保護者にも伝えて下さり、見通しをもって解決しようとしてくれている」「偏りがある。うるさい子や泣き叫ぶ子を優先している」「先生によって差がある」などのコメントがあがっている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	110	23	5	0
110名が「はい」と回答している。「何より子どもが保育園を楽しんでおり先生のことをとても信頼している」「子どもの様子を見こまやかに対応していただいているようです」「先生による。自分の気持ちを話せない子は気づいてもらえないことがある」などのコメントがあがっている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	112	17	4	5
112名が「はい」と回答している。「あまりそういったことを話し確認し合える機会がないです」「情報管理の仕方もゆるく古いものも破棄されていないことがあった」「職員との面談を廊下や保育室出入り口で行われた。他の方が通る前で話したくなかった」などのコメントがあがっている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	111	23	4	0
111名が「はい」と回答している。「毎日その日の出来事を教えてくださいますが、わかりやすいです」「クラス前に掲示してありわかりやすい。行事等の掲示もあり写真が嬉しい」「毎日しっかり連絡帳に情報を記入いただいているのでわかりやすいです」「何をしたのかがあまり説明のないこともある」などのコメントがあがっている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	104	24	2	8
104名が「はい」と回答している。「特に不満はありません」「少しの要望や不満でも気にしていただき細やかに対応いただけています」「担任の先生はもちろん主任の先生がよく見てくれています」「シフト制かつ幼児クラスはお迎え対応がバタつくので日頃あまり伝えられない」などのコメントがあがっている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	60	31	18	29
60名が「はい」と回答している。「言語指導や心理カウンセリングを適切なタイミングで勧めてくれた」「保育園で対応していただけるので相談したことはなし」「今のところそういう状況にならなかったことがない」など複数のコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/> 非該当
	カテゴリ1の講評	
	法人と園の理念、方針は、入園案内、ホームページ等で保護者や職員に浸透させている 園の運営法人は、全国各地に保育事業を展開しており、経営理念や保育方針に基づいて各園が保育事業を推進するために、園長会議などを開催し職員にはその周知徹底を図っている。利用者(保護者)には、入園案内やリーフレット、パンフレット、ホームページなどでその内容を掲載し、紹介を行っている。又、園内各所には保護者や職員、来訪者がいつでも目に出来るように各クラスや、事務所に掲示しており、入園説明会などでは、それを読みながら説明を行っている。 園長をはじめとする経営層、職員層の役割や責任は、組織の仕組みの中で果たされている 保育園業務マニュアル、桂坂保育室運営確認事項、業務確認書等で経営層としての役割や責任、を説明しており、年度初めの職員会議では年間目標、方針を職員に伝えている。マニュアルは常時事務室にて閲覧できる状態にある。運営に必要な書類は園長が日々を通し、必要に応じて指導を加えながら決裁している。園長は法人のスーパーバイザーを兼務されている関係上、外出の機会が多いが、副園長との連携のもとその責務をこなしている。 重要な案件についてはマニュアルに定められ、それに沿って意思決定が行われている 日常的な運営に関わる書類の処理以外に、重要な案件が発生した場合も、法人の諸規程にそったルールであらかじめ手順が決まっており、それに沿って意思決定が行われており、結果については、クラスリーダーから職員・アルバイトまで周知するように努めている。特に各棟で行われる昼礼会議で提案されれば、意見を集約し、全体会議にて決定するようにしている。保護者に対して伝える必要がある場合は、園だよりや保護者会にて園長が直接口頭で説明をすることもあり、より早く伝えることを心掛けている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

地域支援やボランティアの受け入れにより保育園の役割・意義を伝えている

地域の子育てニーズを把握し、園としての特徴づくりに活かす為に、地域の保護者・子供を対象に「保育園であそぼう会」を開催し、自由に参加して頂いている。又、ボランティアの受け入れについては、地域の保育園に対する理解を深めてもらう事や、保育サービスの内容と量を充実し、運営・サービスに客観性と透明性を持たせることを目的に実施している。

事業終了毎に保護者アンケートをとり、振り返りと次回に向けた対策を検討している

サービスの質の向上に向けた取り組みの一環として、利用者の意向を集約して分析するために、事業終了毎にアンケートを実施して意見を収集し、振り返りを行っている。利用者から見たサービスの現状と問題を把握や分析し、その成果や課題については園だよりに、その結果を公表している。職員から上がった添付して保護者にもフィードバックしており、直接保護者から口頭で受けた意見も含めて検討している。

高輪新駅の開業による人口増に対応した園のあり方を中期的に検討していくことが望まれる

園からほど近い田町駅と品川駅の間、山手線新駅が開業することが決定している。その広大な敷地には駅舎と同時にオフィスビルや高層マンションなどが立つという話がある。そういった背景の下で地域における人口の増加、保育園利用ニーズの増加が予想される。こうした環境の変化を見据えて、区の政策動向を確認しながら、「保育室」としてのありかたや、利用定員の見直しなどについて中期的に検討を図っていくことも必要と推察される。

3			カテゴリ-3	
経営における社会的責任				
サブカテゴリ-1(3-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。			○ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)				
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある			○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている			○ 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)				
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している			○ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している			○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる			○ 非該当

カテゴリ3の講評

法人及び園の職員として守るべきことやマナー等を周知している

法人及び園の職員として関係する方々から信頼されるために、職員としての心構えと守らなければならないことについて、就学前の子供に関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律、児童憲章全国保育士会倫理要綱等により、心構えを周知、徹底している。又、新任職員については入社前研修を通じて、社会人としての約束事やマナーについて指導を受けており、入社後には、職員会議や昼礼会議などで確認される機会もある。これにより、さらに信頼される人材育成が期待される。

園の透明性を高めるために、保護者向けに「園長へのメッセージ箱」を設けている

保護者から園に対する対するクレームやご指摘については、港区のポータルサイトや広聴メール、園内では「園長へのメッセージ箱」等の利用を紹介しているが、件数的には年間10件以下でそれほど多くなく、発生したものは迅速丁寧に対応するように心がけている。「園長へのメッセージ箱」については、現在、事務所の受付窓口から見通しが良い場所にある為、設置場所を工夫する予定である。又、園の廊下には苦情処理受付責任者が明示されている文書が掲示されており、苦情受け入れの門戸は開放されている。

地域や福祉の状況を確認する為、地域児童施設会などに参加している

港区や自社の園長会、地域児童施設会に出席し、地域の情報収集や他地域との交流も図っている。しかしながら、現状では、地域連携を深めていくための様々な会議に参加する人員体制が取りにくいところがあり、今後の課題といえる。一方、ボランティアの受け入れや地域支援として入園前の「一緒に遊ぼう」会を開催し園のPRを兼ねて保育園の役割や意義を伝えている。

4			カテゴリ-4	
リスクマネジメント				
サブカテゴリ-1(4-1)				
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(00000)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる			<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(4-2)				
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(0000)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している			<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-4の講評				
<p>個人情報やプライバシーを保護するように、情報の取り扱いに注意している 個人情報やプライバシーに関わる情報を取り扱うことから、個人情報に関わる資料やファイルは管理方法を決めて保管しており、利用者の個人情報の使用や開示については、同意書を取り交わし約束通りに取り扱っている。またコンピューター内の情報管理についても、パスワード管理や持ち出しなどのルールを決めて運用することで機密保持に努めるなど、情報の管理および保護についてのルールに基づいて管理され、必要な人が必要ときに正しい情報を入手できるように努めている。</p> <p>情報共有・情報発信の方法を職員全員で振り返り、業務改善を図ることが望まれる 子どもの状況や保護者からの要望等に関する情報を職員間で共有化する方法として、毎日行われる昼社会議や月1回の職員会議で状況や留意点などの確認に活用されている。今後は、保育の実践と保護者対応、業務の遂行を効率的・効果的に推進するために、現在の情報共有の仕組みや利用者・地域への情報発信する仕組みがうまく機能しているかを、職員全員で振り返り、問題や課題を共通認識した上で情報共有の仕組みの改善を図ることが望まれる。</p> <p>港区の危機管理体制及び園内の役割分担が出来ている 災害対策として、園児には地震や火事の時の対応を体で覚えてもらうために毎月訓練を行っている。園の対策テーマは、地震、火事、防犯、緊急時対策等があげられるが、基本は港区の基本マニュアルに準じた対応を行うことになっている。しかしながら、BCP(事業継続計画)は、日常的な経営の一環として策定・運用を実施することで、緊急時の対応力が出来、社会的にも信用力が高まり、中・長期的な業績向上が期待出来る事から、法人として早急な充実が望まれる。</p>				

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

職員の採用や配置は法人本部が行うが、希望は半年前には提出している

正規職員は、法人本部が選考、採用を行っているが、園としては現状を把握し、半年前には希望を提出するようにしている。足りないときは、転勤要請もさることながら、派遣社員や契約社員については園で採用が可能なことから、その都度園長が履歴書、面接等から判断して採用、配置を決めている。園内での配置については職員調査票により、本人の希望も考慮して行うようにはしているが、園長自身、スーパーバイザーを兼務されていることから、人事評価等で同法人が運営する他園に来訪し、面談調整等を行うこともある。

働きやすい職場づくりと職員の資質の向上に努めている

当園では、本年4月より園長自身が交代したことを期に、園内に位置する3棟に主任各1名を配置し、組織内のコミュニケーションを密にする取り組みを始めた。それまで棟内の枠でしか考えられなかった取り組みも、枠を超えて園としての考え方が出来るようになり、職員からは、延長保育をC棟に集中させて実施するなど、効率化につながる提案が出てくるようになった。

実務を通じた能力向上を図る活動を職員とともに検討し実践していくことが望まれる

園では階層別研修や、入所前研修等を行い、職員の能力向上を図っている。その中では、求められる能力や共有知識を明らかにし、出来るだけそれに近づけられることを目標に行われている。研修で学んだ事を如何に実務に活かすか、或いは実務を通じて知識・技術を向上させるかという事が重要であることから、職員の研修計画のみならず、実務の場面でどのような能力をつけていくか、つけられるかを職員とともに検討し、計画に明らかにして取り組んでいくことが今後の課題と思われる。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

保護者間で、保育の共有が薄く、保護者対応で伝えてもなかなかイメージを持ってもらいにくいと感じていた為、保育の取り組みを保護者と共有できるような情報発信をしていくことを目標として、園児達の日々の活動の中に年間を通じてつながりのあるテーマ性を持たせて、保護者の方々に理解して頂ける様、組織的に活動を行ってきた。

【具体的取り組み】

毎月の誕生会では「園庭の虫」を題材とした劇を行ったり、夏祭りでは地域の消防署や警察署などになりきって遊んだり、運動会では「高輪探検隊」と題し、地域を探検するストーリーに基づき出し物を行った。そのような取り組みを廊下に写真付きで掲示を行い、そこには週案も一緒に掲示することで、保護者の皆さんには、保育のテーマと連携していることを強調することに重点を置いてきた。そうした取り組みの結果、今どのように保育を進めているかという事を、保護者の皆さんには良く知って頂くことが出来た。実際、行事では親子共に盛り上がり参加して頂けたと感じているし、同時に掲載した週案も、場所を統一し、写真等と一緒に貼り出すことにより、保護者からは見やすくなったという声も頂き、より意識して見て頂けるようになったと感じている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

一連の取り組みは、「高輪」という保育のテーマの下で実施されている。地域と密着した保育園を目指し、「高輪」と「桂坂保育室」のイメージがオーバーラップ出来るよう自分たちがどういう保育を目指しているかを、地域の皆さんに知って頂く活動は、大変有効なものとして評価できる。

写真付きのポスターで状況をアピールすることで、現在就園中の園児ご家族だけでなく、これから入園を検討している家族に対して、情報発信が出来、園のファン作りに一役買っている活動であるといえる。

来年度は、更に写真付きの様子を掲示を増やし、保護者の皆さんとのイメージの共有を図るなど、保育園に対して興味をもってもらおうことで、園児達の成長に気づき、子育ての喜びを感じられる会話がが増えていくことを期待する。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

深刻な保育士不足により、現在就業中の職員の負担が徐々に大きくなってきていることを感じており、その負担を減らす為人材不足の解消につながる処遇の改善を行うことで職員の確保につなげていく組織的活動を行っていくこと。

【具体的な取り組み】

年度途中で処遇改善が行われ、リーダー手当や住宅補助の改善が図られている。結果、満足とはいかないまでも保育士の収入は多少安定したといえる。しかし、処遇改善による退職者の減少傾向はみられるものの、職員の異動や新卒、中途採用が多くあり、保育士の質を維持することが最優先課題となっている。そのため、各クラスの保育は昨年度から行っている職員に指導させ、早朝、夜間の保育士は、主任クラスを固定的に配置して新しい職員に早く慣れて頂ける様にしてきた。結果として、今ではどの職員もすべての業務をこなせるようになってきた。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園としては、来年度は職員の質の向上を重点課題として、職員一人ひとりがさらに伸びてもらえることを目指す取り組みを検討している。また、給与に加えて、労働環境の改善にも力を入れていく必要もあると推察される。職員が安心して、自らの力量を高めるために仕事にじっくりと向き合える環境の充実にも期待する。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている ○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している ○ 非該当
	● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している ○ 非該当
	サブカテゴリ1の講評	
	リーフレットでは限られた紙面スペースの中で、園の情報を充実させている 区の冊子で情報を提供しており、保護者が閲覧できるようになっている。ホームページでも園の紹介をしている。ホームページの中のブログでは、日々の保育内容や子どもの様子が写真入りで紹介されており、更新頻度も高く、園の「今」を伝えることができている。リーフレットも作成して見学者等に配布している。A4両面3つ折りのリーフレットであるが、園の案内、1日のスケジュール、年間行事、運営会社の運営理念、保育目標とねらい、園の見取り図が掲載されており、限られた紙面のスペースの中で情報を充実させている。 見学希望者の都合に合わせてともに、アンケートをとって意見を聞いている 見学希望の問い合わせがあれば、希望の日時を聞いて、出来る限り希望者の都合に合わせて対応できるようにしている。見学時には副園長や主任が対応して、運営理念や園の目標、カリキュラムなどを伝えるとともに、コーナー設定などの保育環境も見てもらっている。質問があれば丁寧に応じている。見学終了後には、「見学者アンケート」を記入してもらっている。「見学の理由」、「保育所を選ぶ基準」、「あったらいいなと思うサービス」、「見学した結果」などを聞いて、見学者の声を園の運営に活かしている。 地域子育て支援「いっしょにあそぼう」の利用から、入園につながるケースもある 「いっしょにあそぼう」という地域子育て支援の取り組みを6月以降、毎月1回実施している。予約制をとっており、周知のためのポスターを制作して、園内の掲示板や園舎の周りに貼り出して、参加を呼びかけている。地域の子育て世帯の参加があり、見学の問い合わせの際にも「いっしょにあそぼう」へのお誘いもしている。参加して園での遊びなどを体験した上で入園につながるケースもある。参加者にはアンケートを記入してもらっており、「園に聞いてみたいこと」、「相談したいこと」を聞いて、子育て支援の参考としている。	
	サブカテゴリ2	
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている ○ 非該当
	● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している ○ 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園前説明会の場で重要説明書に基づく説明を行って、同意を得ている
 新入園が決定する2月下旬以降に入園前説明会を実施している。園長より重要事項説明書に関する説明を行っており、園の概要や、緊急時・非常時対応、個人情報の取り扱いについて、保育内容、年間行事、1日の流れ、お散歩マップについて、健康管理、給食について等、園を利用するに当たって必要な事項を網羅している。特に重要な箇所については読み合わせをして十分な確認を行っている。質疑応答も丁寧に行って、保護者が不安になることがないように配慮している。説明・質疑応答が終わった後に、保護者から説明に関する同意をもらっている。

個別に面談をして情報を収集するとともに、慣らし保育の時間を配慮している
 入園説明会での重要事項の説明の後、担任予定の保育士や看護師、栄養士を交えた個別の面談を実施して、必要な情報を聞き取っている。聞き取った情報は児童票に記入して個別ファイルで管理をしている。必要な保護者には、冷凍母乳の取り扱い書を渡して説明している。慣らし保育について初日は午前中のみとなるが、その後は子どもや保護者の状況に応じて個別の対応を図っている。保育室の小窓から保護者が子どもの様子を見ることができるよう配慮もしている。開始当初には保護者に子どもの様子を細かく伝えて不安解消に努めている。

転園や就学に必要な情報提供を行っており、卒園児が遊びにきている
 転園となった場合には保護者に同意を得てから、転園先に情報提供している。転園先の園から、子どもにどのように関わっていたか等の問い合わせがあった場合には、保護者に確認をした上で必要な情報を伝えている。幼稚園に転園するケースもあることから、園では地域の保育園・幼稚園との情報交換の機会をさらに充実させたいと考えている。年長児の保育要録は、作成の上進学先の学校に届けている。卒園児が普段から遊びに来ることもあり、きょうだい児がいる場合には、夏祭りなどの行事に卒園児とともに来園することもある。

サブカテゴリー3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	11/11
----------	---------------------	--------------------------	--------------

評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3
 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4
 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ3の講評

児童票ファイルで子どもの情報を一元管理しており、個別的な計画も作成している
 児童票ファイルにて、子どもの情報を一元管理している。「児童票」、「入園前面談シート」、「緊急時引渡票」、「個別面談記録」、「発達記録(6、9、12、3月に確認を実施)」、「成長のめやすに関する保護者との共有記録(年2回の個別面談の結果を踏まえて個別のねらいを作成)」、「成長・発達の様子とこれまで家庭で心がけてきたこと」等の書類が綴られている。個別的な計画が必要な子どもについては、区の書式を利用して園長、主任、看護師、栄養士等との検討を経て個別計画表を作成しており、評価・見直しを実施している。

運営理念を基に全体的な計画を定め、年間指導計画や月案・週案につなげている
 運営会社の運営理念を保育理念として全体的な計画を定めている。その中では、保育方針、園目標、育みたい資質・能力、子どもの保育目標(年齢別)、健康支援など12の領域に関する計画、養護および教育に関する計画、から構成されている。年間指導指導は3ヵ月毎の期間で作成されており、ねらい、行事、養護、食育、異年齢保育画等に関する活動計画が記されており、月間指導計画に展開されている。週案は前の週の評価・反省を踏まえて金曜日までに作成し、月曜日には園内に掲示している。日々の記録も作成して、職員間での情報共有を図っている。

週案の掲示や公開保育の実施により、保護者に保育のねらいを伝えている
 週案を玄関やクラス入口横に掲示して、週のねらいや活動予定を保護者に周知している。朝・夕に保護者に子どもの様子を伝える際にも、保育のねらいを盛り込んだ話ができるように努めている。公開保育として保育士体験と保育参観を実施している。保育士体験は通年で実施しており、1組2名で2組まで受け入れている。保育参観は年1回、1週間の期間を設けて行っており、環境構成図を作成して保育内容やねらいの理解が深まるような説明を行っている。保護者会も年2回(4月と2月)開催して園から情報提供するとともに、保護者からの意見を聞いている。

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報取り扱いの同意を得るとともに、プライバシーに配慮している</p> <p>入園前面接において個人情報の取り扱いについて説明をして、保護者から同意書ももらっている。関係機関に子どもの情報を提供する際には、保護者の同意を得てから行っている。個人情報保護方針を事務所に掲示している。ホームページや貸出用のCD-ROMへの写真の使用についても、保護者の意思を確認した上で行っている。夏の水遊びの着替えは男女別にしており、おねしょやおもらしの際にも周囲に分からないように配慮している。女の子の服装(スカートの下にスパッツを履く等)や、健診時のカーテンでの区切りなどの細かな配慮も行っている。</p> <p>虐待防止や権利擁護に係る職員研修を実施して、職員の意識向上に努めている</p> <p>区の保健師を講師として招いて虐待防止研修を実施している。育児困難が考えられるケースについては、日常の中で気になることを記録したり写真を撮るなど、様子を注意深く見守っている。虐待防止月間には昼礼で職員に周知をして、虐待防止への意識の向上に努めている。子どもの権利擁護に関する研修も実施しているほか、昼礼会議の中で話をしたり、子どもへの言葉がけについて職員間での振り返りを行う等の取り組みも実施している。年度始めや中頃に職員会議でクレドの読み合わせを行い、職員の適切な言動についての確認も行っている。</p> <p>担当保育士により子どもに寄り添い、価値観や生活習慣にも配慮している</p> <p>乳児は保育士の担当制を採用している。子どもの発達の状況を把握しながら、一人ひとりに合った対応ができるようにしている。1歳児は3グループに分けて保育を実施しているが、月齢の偏りがないように配慮してグループ構成を決めている。園として、子どもの気持ちに寄り添い、生活の中でゆったりくつろげる環境を提供して、子どもを主体とする保育ができるように心がけている。外国籍の子どもにも少しずつ日本語が理解できるように関わっており、宗教による食事面での対応をするなど、価値観や生活習慣にも配慮している。</p>			
サブカテゴリ-6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリ6の講評

各種マニュアルを整備しており、昼礼にて読み合わせを行っている

保育業務マニュアル(運営理念や保育業務における基本的事項等について)、衛生マニュアル(調乳手順、清掃方法などの衛生関連業務について)、与薬マニュアル(薬の預かり方、投薬方法など)、ボランティア受け入れガイドライン(ボランティア受け入れに関する注意事項、個人情報保護についての誓約書など)等、各種のマニュアルが整備されている。職員への周知のために、新入職員に対する入社前研修や、昼礼や職員会議での読み合わせなどを実施している。入社前研修では、保育理念やSIDSについても取り上げて、職員の理解を深めている。

定められた手順に基づくチェックの実施やマニュアルの定期的な見直しをしている

マニュアルは各棟の事務所に配備されている。マニュアルに定められた手順に基づき、園内の安全管理のための日常点検も実施している。業務マニュアルは年1回、園長会にて見直しを実施している。園のルールや手順の見直しが行われた場合には、該当箇所が速やかに変更されている。変更した内容については、昼礼や職員会議の場で周知が図られている。当会議やクラス会議でも保護者の要望を踏まえた保育の実施について検討が行われており、必要に応じて業務内容の見直しに反映させている。

安全に関する他園との情報共有の仕組みがあり、ヒヤリハットの共有にも取り組んでいる

ヒヤリハット報告を活用して、園の安全向上に役立てている。主任・園長に提出された報告書の内容は、昼礼の場で他の職員にも伝えられており、再発防止や注意喚起につなげている。要因分析や再発防止策も検討している。重大と判断される内容のヒヤリハットや事故報告書については園内だけでなく、会社の運営する他の園とも共有する仕組みができています。「セーフティ(安全)&セキュリティ(安心)を第一に」という運営理念の実現のために、会社全体で情報共有を図りながら、安全管理に関する職員意識の向上に努めている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○ 非該当
評価項目1の講評			
<p>特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援を丁寧に行っている</p> <p>特別な配慮が必要と思われる子どもの保育にあたっては、区の制度を活用して心理専門職員による定期的な巡回を実施し、発達チェックを行っている。巡回当日の助言を日常の保育にどのように生かしていくか職員間で話し合い、粗大運動を多く取り入れるなど、専門家の知見や指導をその後の保育につなげ指導計画に反映させている。保護者にもアドバイスの内容を伝え、体を大きく動かす活動の大切さなどについて説明し、休日の過ごし方の参考にしてもらったり、子どものよりよい発達を促すために協力を求めたり、園と家庭で連携してしている。</p> <p>子どもの国籍や文化の違いを自然に理解できるよう保育を進めている</p> <p>外国籍の子どもが多い地域性を踏まえて、さまざまな文化の違いに目を向け、外国の挨拶や国の言葉を紹介したり、興味・関心を高めるための取り組みを積極的に行っている。園児が共同作品の一つとして描いた世界地図を壁一面に掲げ国名と国旗が貼られている。運動会のテーマを「世界」と設定して、日本を飛び立ち諸国を旅するというストーリー性豊かな競技を行ない、2020年のオリンピックへ向けてグローバルな視点に立っている。外国籍の子どもたちの文化だけでなく、宗教や生活習慣など、どの家庭にもあるそれぞれの文化を尊重している。</p> <p>保育担当制により芽生えた愛情や信頼感を大切にし、心地よい生活と養護を保障している</p> <p>乳児クラスでは、新年度開始から2カ月間一人ひとりの様子を観察し、発達の特性などを十分に把握したうえで各児の担当者を決め、6月より担当制保育を実施している。子どもの傍らで同じ保育士が関わり、少人数を担当する中で自己主張を保障し、子ども同士のトラブルに丁寧に対応している。日々の連絡帳も担当者が記入し、連続した育ちを記録するとともに、体調の変化にもいち早く気づけるよう配慮している。信頼できる身近な保育者によって、声、表情、しぐさなどで表す子どもの欲求を素早く察知し、過ごしやすい環境の工夫に努めている。</p>			
2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○ 非該当

評価項目2の講評

家庭と連携して生活リズムをつくり、保育者間で共有している

毎年60名近い新入園児を迎えるにあたり、初めて当園を利用する保護者、或いは他の保育施設から転入する保護者に対し、それぞれの家庭の環境などに留意して慎重に受け入れを行っている。保護者と話し合い、家庭での様子を聞きながら、園での規則正しい生活リズムをつくっていくためにデイリープログラムを立案している。保護者と保育士が言葉を交わし、家庭の抱える支援のニーズと気づきを職員間で共有し、多角的な理解に努め、個人差や発達を捉えた配慮を継続しながら、日々の子どもの成長に応じて園の一日をデザインしている。

子どもの意欲を尊重しながら、基本的な生活習慣の自立を目指している

ティースプーンやエジソンスプーンなど発達に合わせた食具を使用し、自分から食べようとする気持ちを育てている。乳児期から子どもの主体性を尊重するために、排泄を自立したいという子どもの意欲や態度を育てる環境の構成を意識し、座ってズボンに足を通すことのできるベンチを用意している。眠りのための環境づくりでは、3歳児以下は個々の必要性に応じて一定の睡眠がとれるよう生活リズムの安定を図り、4、5歳児は基本的には午睡時間を設けず就学後の生活に備えるなど、子どもの育ちに沿った基本的な生活習慣の自立に向けて援助している。

日常的、継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成に努めている

児童定員282名の大規模園であるため、3棟との連絡を密に行い、ライン表や記録表、屋礼記録を基に子どもの心身の状態や活動の様子を伝えている。全クラスの活動を一箇所にまとめて毎日掲示することで、年齢毎の様子を分かりやすく提供している。送迎時の挨拶だけに留まらず、プラスの一言を心がけ、乳児担当制保育の担当者は保護者との会話を重要視しつつ、同じことを言わないように気を配っている。怪我が起きたときには前後の説明と翌日の確認を怠らないための申し送りを行ない、担任以外の保育士でも伝えられるように仕組みを整えている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

子どもがもつ興味・関心の探求を見守り、学びに向かう姿勢を援助している

室内の環境設定に力を入れ、コーナー毎に発達に応じた遊具を取り揃え、子ども同士の関わりと関係づくり、集団における経験と育ちを保障する場が随所に設けられている。遊び込む積み重ねが学びの原点となり、豊かな生活へ結びつくよう職員間で話し合い創意工夫している。園庭や散歩では、戸外で体を思い切り動かし、ピオトープの昆虫や植物を見て目の前で起きる自然の変化に驚き、水や砂、土、草などの自然環境に触れる機会を意識している。都会の中であっても苗植え体験を行い、子どもの好奇心、科学的な思考を育てる取り組みを模索している。

じっくりと遊び込める環境設定の工夫と豊かな活動が子どもの経験の幅を広げている

卓上ゲームを友達と繰り返し楽しみながらルールを覚え、規範意識を育てたり、子どもの目線、手の届くところに玩具や絵本を配置している。遊んだ後の片付けも子ども自らが済ませようとするよう、適した大きさ、重さ、形のケース、目印などの工夫がある。カプラや積み木などの構成遊びでは、続きを楽しめるスペースを確保し、時間の流れだけでなく、空間の構成にも配慮している。外国人スタッフとの触れ合いを通して英語に親しみ、専門スタッフによる体操教室やリトミックなど、子どもの伸びる力を重視した教育に力を入れ、活動の広がりに繋がっている。

子どもが子どもらしく、主体的に生活することを大切にしている

長時間の子ども集団の中で、お気に入りの居場所を作ったり、みんなで元気に走り回ったり、ダンス曲「エビカニックス」を踊ったり、自分のやりたいことを実現できるような居心地のよい空間づくりを目指して環境を整備している。身近な自然、色や形、感触、見立てやごっこ遊び、劇あそび、運動遊びなどの多くの体験が子どものイメージを豊かにしている。子どもが自ら絵本や紙芝居に親しみ、じっくりと遊び込み感性を養うための環境構成は、保育理念「いつまでも思い出に残る施設」に結びつき、子どもたちに人と関わる楽しさを教えている。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当

評価項目4の講評

年間通して一つのテーマに取り組み、協同的な学びや達成感を支えている

飼育動物のウサギの母親よりオーディションの手紙がフランスから届くなど、ストーリーを描いた導入方法や、世界地図を貼って子どもの興味を引き出し、オリンピックを視野に入れた国際理解の芽生えを培っている。子どもの自発性を基盤として、夏祭り、運動会、劇の配役や係を選んだり、必要なものを共同制作している。イギリスの時計台は、その代表作として今でも室内の遊びを盛り上げている。納得いくまで話し合い、自分たちの手で活動を作り上げ、自分たちで実現できるという経験の積み重ねが達成感となり、協同的な学びとなっている。

試行錯誤しながら、意欲的に取り組みたくなる活動を子どもと共に計画している

行事は日常保育の延長であり特別なことではないと捉え、年長児の意見を取り入れ指導計画と関連付けて発表会の内容を企画し、自から遊びを考えていく子どもたちの成長を見守っている。運動会のダンスをきっかけに歌ったり踊ったりすることが苦手な子、人前ではやりたがらない子も、様々な経験を経て苦手を克服している。イメージを共有し活気ある活動を生み出すために、事前と事後のプロセスを大切に行事終了後も余韻を楽しんでいる。子どもたちのがんばりや見所を口頭で伝えるほか、号外の発行など紙面での表現も効果的と思われる。

保護者の協力を得たり、子どもの成長を共有するための配慮がある

保護者の就労状況に配慮し、日曜日の午前に運動会を開催したことで父親の参加が増え、子どもたちの生き生きとした姿を保育者と共感できた。誕生会では我が子と一緒に職員の出し物を楽しみ、成長を喜び合っている。生活発表会は、ホールの収容人数や発達年齢を考慮して、幼児クラスと2歳児は別の月に分けて設定し、行事に向かう日々の中での子どもの思いや、その子なりの変化をエピソードで保護者に伝えていくことを意識している。また、行事毎にアンケートを実施し、集約結果を保護者に周知すると同時に次年度への貴重な参考意見となっている。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
---	--	--------

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当

評価項目5の講評

子どもが安定して過ごすことができるようになるための工夫がある

在園時間が異なる多様な園児たちがいることを踏まえ、一人ひとりの生活が安定するように一日の生活リズムを整えている。特に3歳未満児の睡眠時間の個人差に配慮し、3歳児以上の園児については、集中して遊ぶ場と、家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごす場との調和に気を配っている。職員の提案による「くつろぎコーナー」は子どもたちのお気に入りの場所となり、クッション、マット、ソファなどを配置して、一人になれる空間を確保している。一日の大半を過ごす子どもたちが、終日楽しく過ごせるよう環境づくりを考えている。

職員間の連携を強化し、保護者への伝達事項を確実にを行うための仕組みを整備している

子どもの人数に応じた適正な職員配置はもとより、早朝保育を選任とする職員を乳児クラスに配置している。いつも同じ保育士が受け入れ、安心できる場所や人の存在が子どもの心情を支えている。長時間の保育を必要とする家庭にとって、朝受け入れた担当職員が延長保育の迎え時にはいないという現状や、登園は母親、降園は父親といったケースも増えている。一人の子どもに複数の職員が関わるため、ライン表や生活記録表を活用して引継ぎを丁寧に行い、全ての職員が共通の認識理解をもつことを心がけ、必要に応じて部屋を分けるなど工夫している。

子どもの成長段階と個性に応じた温かみに溢れた接し方・対話を大事にしている

幼児は画材、ペンシルなど延長保育専用の玩具を用意し、特別感をもつ工夫がなされている。乳児は月齢に合わせて玩具や人形などを準備して、手触り、音・色の違いを楽しみ、視覚・聴覚・触覚を使った遊びを提供している。小集団で過ごす人的環境では、保育者の膝の上で絵本を読み、個別の語らいが心地よく安心できる場となっている。異年齢の移動ではC棟に合流することで、乳児は動かずに済むような配慮がある。今後は、この時間帯に他の子どもにも共有して欲しい遊びがあった場合には、翌日の保育の中で紹介するなどの対応が考えられる。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

保育に溶け込んだ食育を実践している

ジョイクッキング計画書を基に幼児の調理活動を実施している。担任と栄養士が相談して、茄子、ピーマンなど収穫した野菜を給食に取り入れたり、毎月の給食会議を経て、より良い食事提供を目指している。玄関フロアの展示食コーナーに当日の野菜食材や子どもたちが育てたオクラ・バジルを飾り、遠足でのさつま芋収穫体験、年長児が米を研ぎ、保育室の炊飯器で炊き上げ、五感で香りを感じて食欲を高めるなどの実体験がある。栄養士や調理スタッフと子どもとの会話を通して食材を知る機会があり、保育の流れの中で多様な取り組みを行っている。

区の献立をベースに味付けの工夫や、細やかな個別対応がある

区の統一献立に則した給食を提供しながらも、調味料は自由に使用できることから、オイスター・ウスター・中濃といった各ソースの特色を活かし、リンゴ酢、穀物酢、胡椒などを微調整してバリエーション豊かに味付け、もう一味のおいしさを追求している。食物アレルギーの対応には、入園時に看護師と栄養士が保護者面接を行い、アレルギー確認表を活用して代替え献立を個別に提供している。外国籍の食文化の違いや信仰、思想の希望にも個別に対応し、残さず食べることにとらわれず、食べようという気持ちになるようなアプローチを考えている。

食を営む力の育成に向けて体験を重ね、食材料の選定にも留意している

食育の取り組みをイベントに終わらせず、保育に位置づく計画的な活動として進めている。職員も子どもと一緒においしく食べ、噛むことの大切や食器の持ち方などマナーを身につけるよう援助している。安全で安心できる食事を提供するために米は本社との契約農家から搬入され、水は天然ピュアウォーターを使用し、食材の産地を表示して、特に蓮根などの根菜類は土壌汚染にも気を配っている。調理スタッフが旬の食材やレシピを紹介し、保護者に向けて発信している。これからは、喫食状況を随時把握して専門性をより一層発揮することに期待したい。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○ 非該当

評価項目7の講評

乳幼児の安全な環境と衛生管理を維持し、健康支援・安全対策を実行している

一輪車、ホッピング、大縄などを園庭に配置し、全身の運動機能を高める活動を日頃の保育に取り入れ、積極的に戸外に出て体力増進を図っている。遊具の遊び方や尖った物の扱い方など、子どもが遊びを通して自ら危険を回避する力を身につけることを重要視している。うがい、手洗いの指導や、身近な感染症について伝え、清潔な環境を保つよう消毒を行っている。また、温度及び湿度を記録しながらエアコンの調整や加湿器使用の目安にしている。事故を未然に防ぐために施設内外を随時点検し、安全に過ごせる保育環境の維持・改善に努めている。

看護師の専門性を発揮し、健康及び衛生知識の向上と対応手順の周知を徹底している

看護師が施設内を巡回し、定期的・継続的に子どもの状態を把握しつつ、保育士と連携して健康観察をより深めている。AEDを設置した心肺蘇生法、エビペン、ダイアップの使い方など緊急時の対処方法、感染防止のため嘔吐物の処理方法を看護師が職員に指導している。肘内障、アレルギーなど医療的配慮が必要な子どもに、全職員が共通した対応ができるよう書面にまとめ、医療従事者としての専門性を発揮している。園児に向けて歯の模型を活用した歯磨き指導を年2回実施しているが、次年度も看護師による健康教育を増やしていくことが期待できる。

集団保育の中で個々の状況に応じた保健的な対応を維持・継続している

入園前説明会にてSIDSへの対策について、午睡チェックや仰向け寝の取り組みなど一人ひとりの子どもを確実に観察していることを説明している。サーベイランスを通して保護者に感染症に関する情報を随時配信し、毎日の視診で保護者と子どもの体調を把握しながら保育中に配慮すべきことを確認している。疾病が疑われる場合や怪我の対応は看護師が行い、保護者の疑問や質問にも医療従事者としての視点からの的確に答えている。嘱託医や専門機関と連携しつつ保護者が子どもの健康を維持するための方法や習慣に関心をもつことができるよう援助している。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当

評価項目8の講評

就労と子育ての両立を支援し、保護者との良好な関係を構築している

延長保育、土曜保育に加え、区と連携して病児病後、休日、年末の保育施設を案内し、多様なニーズに応じた事業を実施している。行事を日曜日に開催したり、体験保育の希望日を選択できたり、公開保育・保育士体験当日の午後に懇談会を設けるなど活動の時間や日程に幅をもたせ、多忙な保護者の状況に配慮している。魅力ある保護者会となるよう寸劇風に担任を紹介したり、グループディスカッションを取り入れた結果、参加率は80%に達している。引き続き保護者とともに考え、相互の信頼関係を強固にするための働きかけを熱心に行っている。

保護者への支援の考え方を明確にし、子育てに対する自信や意欲に繋げている

公開保育では別途公開保育指導案を立案し、生活や遊びの姿から子どもの育ちの見通しとコミュニケーションの取り方を伝え、子どもの成長に気付き、子育ての喜びが感じられるよう保育の意図を説明している。個人面談では保護者と本音で語り合える関係を大切に、保育士、看護師、栄養士などの専門知識を有する職員が個別に対応している。さらに、日常の悩み相談からカウンセリングに繋がる「子育て相談会」を行い、不安の解消を図っている。区と連携して専門機関からの助言を受けるシステムが構築され、良質かつ適切な支援を行っている。

子どもと大人が育ちあう風土をつくるため、保護者との相互理解に努めている

入園説明会や懇談会にて保護者からの提案を受けて、日頃の姿を写真に収めたCDROMや、図書の貸し出しを開始するなど速やかに対応している。年2回の全体保護者会、毎年の公開保育やビデオ参観、個人面談、季節毎の行事を通して、保護者同士の交流の場を設けている。幼児クラスは保育士体験を通して保護者に絵本の読み聞かせをお願いしたり、友達関係や発達過程について保育士の考えを伝えたり、職員が受講した研修内容を掲示するなど保護者と職員との相互理解を図っている。今後の園便りに園長の子ども観・保育観を載せる事が有効と思われる。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

地域の中で安心して保育を行うために地域との交流・連携を深めている

一般企業と連携して芸術家と子どもたちとの触れ合い事業を実施している。ジャンルを問わず招待できるため、大きなビニールハウスに絵を描く「ふれあいアート」や科学的遊びなど、毎年ボランティアの力を借りて様々な取り組みを行っている。区の紹介で地域の方の指導による「太鼓教室」を開催し、行事で披露した後も楽しむ姿があり、移動動物園では、近隣の保育園、幼稚園、児童館に呼びかけ、地域や退園児を含めて大勢が集い大盛況であった。公園の花植え活動にも継続して参加し、地域の保育園、幼稚園、小学校との交流を深めている。

地域の子育て支援を行う保育施設であることを認識し実践している

在園の保護者だけを対象にするのではなく、地域の子育て家庭に関する支援を行う役割を担っていることを認識して「一緒に遊ぼう」を開催し、在園児と近隣の子どもがともに遊び、地域の親子を取り持つ役割を果たしている。毎回のやり取りの中で育児に悩む保護者の話を傾聴し、時にはアドバイスをするなど気軽に訪れ相談できる雰囲気を保っていることが新たな入園に繋がっている。見学者にリーフレットを手渡ししながら園長・主任が案内し、見学者同士の情報交換や交流の場も設けている。さらに「一緒に遊ぼう」の参加者が増えるよう検討を進めている。

地域の特性を活かした取り組みにより、地域・保護者・職員の和を作り上げている

年長児が手紙を書いて地域の方に踊りの指導をお願いしたり、夕涼み会に日頃お世話になっている人を招待したり、園行事への参加を積極的に呼びかけている。保護者がクリスマスソングを披露してプロの歌声を聴く機会、2歳児は近隣公園へ小遠足、3歳児は移動動物園を兼ねた戸外活動、4・5歳児は親子遠足で交流している。初めて子育てをしている保護者が多い地域性を踏まえて保育士によるベビーマッサージや触れ合い遊びの実践など、地域家庭・在園家庭・園の三者が協力して子どもを育てていくという観点に立ち、結び合うために成果をあげている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	環境を通して行う教育に積極的に取り組み、総合的な保育を展開している	
内容①	全保育室の遊具棚には年齢に適した数十種類の玩具があり、子どもがいつでも手に取れるよう並べられている。コーナーの配置は互いの遊びを見ることができて、楽しさを共有できるほどよい距離に設定されている。子どもの自主性・自発性を尊重し、遊び込める時間と空間の工夫があり、天蓋やカフェカーテンを取り付け、観葉植物を設置し緑視力を高めている。布や木など自然の素材を用いた手作りの装飾が施され園児の絵を額に入れて飾り、温かみのある保育環境となっている。興味・発達・季節などに応じてレイアウトを変更し玩具の入れ替えも行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	各棟に主任を配置するなど、組織内コミュニケーションを密に実施している	
内容②	今年度園長が交代され、大幅な組織変更により各棟に主任が設置され、3名の主任同士の情報交換により連携が良く出来るようになってきた。A棟は3・4・5歳児、B棟は0・2歳児、C棟は1歳児と別々の敷地に建物があり、それぞれ特徴のある建物であるが、これまで、その中でしか考えられなかったことが、お互いに連携をとることにより、あたかも一つの建屋の中で暮らしているがごとく枠を超えた発想が生まれるようになり、職員からは、延長保育や、土曜保育等をC棟に集中させて実施するなど、効率化につながる提案が出てくるようになった。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	食育をイベントに終わらせずに保育に位置付けた活動として展開している	
内容③	ジョイクッキング計画書を基に幼児の調理活動を実施している。担任と栄養士が相談して、茄子、ピーマンなど収穫した野菜を給食に取り入れている。また、食育の取り組みをイベントに終わらせず、保育に位置づく計画的な活動として進めている。職員も子どもと一緒においしく食べ、噛むことの大切や食器の持ち方などマナーを身につけるよう援助している。安全で安心できる食事を提供するために米は本社との契約農家から搬入され、水は天然ピュアウォーターを使用し、食材の産地を表示して、特に蓮根などの根菜類は土壌汚染にも気を配っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日常の保育と関連付けながら、子どもの育ちを保護者と分かち合い、地域に開かれた行事活動を行っている
	内容	行事のあり方について職員間で検討し、地域の特性を生かしたテーマを設けて運動会を盛り上げるなど、ストーリー性のある独自性豊かな行事を行っている。導入の仕方に趣向を凝らし、子どもたちに興味・関心が持てるよう行事での歌や体操を日常の保育に取り入れ、その過程をクラス便りに掲載し「行事前から我が子の活動を一緒に楽しむことができる」と好評を得ている。保育参加、保育士体験、公開保育、誕生会など保護者と楽しむ行事に加えて、地域資源を活かして太鼓など芸術家と触れ合う活動を行い、体験や学びをその後の保育に反映させている。
2	タイトル	専門性を背景とした相談・助言・情報提供・行動見本の提示等の保育相談支援に関するシステムが活用されている
	内容	特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、区のサポートの仕組みを活かして、理専門職員による定期的な巡回で援助方法の指導を受ける機会があり、助言内容を職員間で共有し、常に同じ加配を配置して子どもの気持ちに応える保育を実践している。保護者の悩みや不安についても心理専門職員に気軽に相談できるように全ての保護者にアナウンスし、希望者はカウンセリングを受けるなど、子育ての経験と親としての育ちを後押ししている。自治体や地域の関係機関と連携・協力したシステムが構築され、軌道に乗ったことが大きな成果を生み出している。
3	タイトル	保育のねらいを伝えたり、公開保育を通じて保護者が保育内容について知ることができており、意見も聞いて保育に活かしている
	内容	週案を玄関やクラス入口横に掲示して、週のねらいや活動予定を保護者に周知している。朝・夕に保護者に子どもの様子を伝える際にも、保育のねらいを盛り込んだ話ができるように努めている。公開保育として保育士体験と保育参観を実施している。保育士体験は通年で実施しており、1組2名で2組まで受け入れている。保育参観は年1回、1週間の期間を設けて行っており、環境構成図を作成して保育内容やねらいの理解が深まるような説明を行っている。保護者会も年2回(4月と2月)開催して、保護者からの意見を聞いて保育に活かしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	新人職員が多い中で、保護者との信頼関係が構築できる職員となっていくための育成内容の工夫に期待したい
	内容	今年度は運営法人において新規採用者数が多かった背景から、当園でも新人保育士が多く配置されている。新人教育として動画等を活用した入社前研修や、入社後には階層別研修などが実施されている。しかし、若年層の職員の中には保護者とのコミュニケーションに不足を感じる人達も多いと推察される。今後は、園内研修、外部研修を通し、保護者に自分の言葉で意思を伝えることが出来る訓練を強化されることを期待したい。保護者に子どもに関する重要な情報をきちんと伝えるときにも、保護者から信頼される保育士として育っていくことに期待したい。
2	タイトル	縦割り保育で異年齢の子どもと触れあう機会が増え、子どもたち相互の育ち合いが促されるよう期待したい
	内容	各棟が道路を隔てた独立した園舎となっており、A棟(3, 4, 5歳児)・B棟(0, 2歳児)・C棟(1歳児)の三か所に分散した建物構造であることから、各棟に主任を配置して連携を進めている。幼児クラスは、縦割りで過ごす保育を基本としながら当番活動や運動会での交流が行われている。今後は、3歳未満児が3歳児以上の保育に移行する時期の保育、援助とその関わり、職員間の連携など、クラスの枠を超えた交流の場が増えることが望まれる。学んだ知識や遊びが年下の子どもたちに伝承され、縦割り保育が生み出すコミュニティに期待している。
3	タイトル	ボランティアなど地域住民向けの情報発信や、地域の関係機関のネットワークに参加する職員を増やすなどの取り組みの進展に期待したい
	内容	現在、園ではホームページやリーフレットでの情報提供を行って、園の様子や保育について知らせている。「いっしょにあそぼう」という地域子育て支援のポスターも制作して、園内の掲示板や園舎の周りに貼り出して、参加を呼びかけている。今後はこうした情報発信に加えて、ボランティアに関する情報提供を行うなど、より地域の方の関わりが増えるような情報発信も方法も検討されたい。また、地域の関係機関のネットワークにも多くの職員が参加して、地域の情報に直接触れる機会を充実させていくことも検討が期待される。